

陸前高田市小友地区民生委員児童委員協議会

～ 8名の児童への思いを胸に～

(平成 25 年 2 月 14 日掲載)

小友中学校では、全校生徒 50 名のうち、現 3 年生は同級生 8 名を亡くしました。小友地区民児協では、亡くなった児童のことを重く受け止め、どのようにしたら犠牲者を出すことを防げるのか、という思いから、「防災」に対する強い思いを抱き、取り組みを考えているところです。

(1) 現在の小友地区の様子

現在、津波被害を受けた陸前高田市立小友中学校の取り壊しも始まっており、復興のスピードはゆっくりながらも、少しずつ進んでいます。被災地の児童生徒に粗暴行為が見られるという話も聞きますが、現在は、米崎・広田との 3 中学校統合に向けて忙しくしており、亡くなった同級生のためにも頑張ろうという意識が児童のなかにも見え、頼もしくも感じます。しかし、学校の校庭設備や遊具が不十分なこと、仮設住宅から通う子と自宅から通う子との住まいが離れ、友人同士の家が遠くなったこと、特に小学校低学年は放課後の遊び場がないことで、ますます体力低下を招くことを懸念しています。

(2) 現在の小友地区民児協の活動

小友地区では、関係機関（特に生活支援相談員）、保育・教育機関、福祉施設との連携を大切にし、福祉の向上に努める中で、全国的にも見直され活発化している「防災教育」に注目しています。

小中学校との協議会を年 3 回（3 月・7 月・12 月）開催し、家庭および生徒指導、養育上配慮を要する児童生徒の指導支援、長期休業中の生活支援などについて協議しました。また、「ついでにパトロール隊」という見守りボランティアへ参加協力し、地域の見守りを行なっています。

その他、防災についての研修会を実施し、自分たちの 3.11 体験をもとに、災害時の要援護者支援活動のあり方について検討するとともに、学校における防災・安全教育、災害時の避難行動について共通理解を深めています。

※ 発災後、「小友小学校危機管理マニュアル」が改訂され、避難時の判断・指導方法がより詳しく提示されました。

(3) これからの取り組み、全国の委員へ伝えたいこと

今後は、自分たちの経験をもとに、防災教育に貢献していきたいと思います。震災後に行なわれた小中学校合同の避難訓練では、皆真剣に取り組む様子が見受けられ、うれしいような切ないような複雑な気持ちを抱きました。

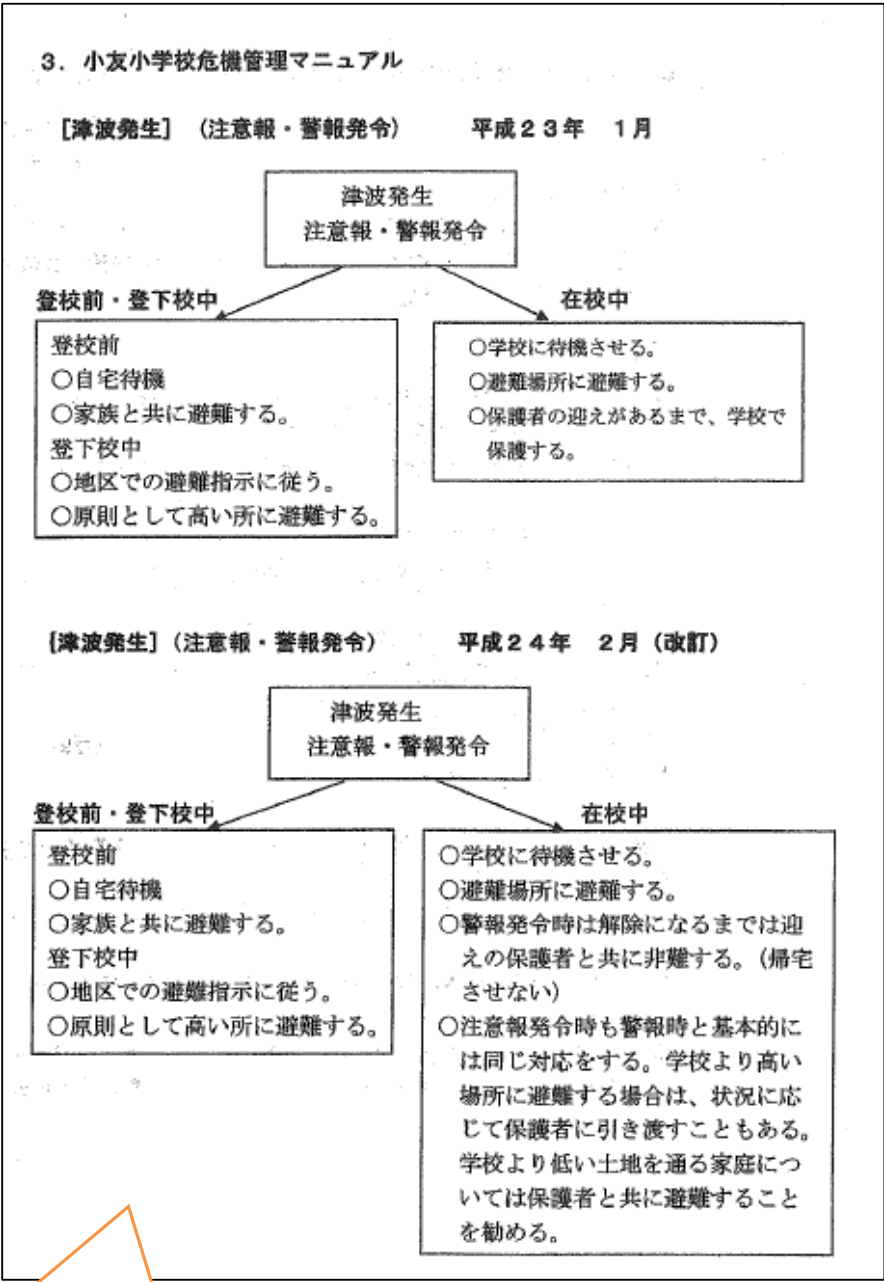
被災地で散見される、ボランティアが作成した「避難せよ」の避難掲示板は、津波の恐ろしさを風化させないための象徴かもしれません。これを手本に、避難路に設置していきたいと思っています。

全国の皆さんにも、震災の恐ろしさ、津波の恐怖を風化させないでほしいと思います。それが、被災地の願いではないでしょうか。

【写真】



小友小学校の避難訓練の様子 / 避難掲示板（ボランティア作）



小友小学校危機管理マニュアル（新旧）